「地域ブランドの保護について」

「模倣品に係る事例集について」

1. 前回の議論のまとめ

前回は、「地域ブランドの保護について」(案)の意見募集の結果を踏まえ、パブリックコメントに提出された意見に対する考え方についての議論及び「水際及びインターネットにおける模倣品問題に関する事例集」(案)の検討を行った。

(1) 地域ブランドの保護について

登録要件

「周知性」のあるものを登録するとした場合、第3条第2項により「識別力」があるとしたものとの関係がわかりにくい。むしろ、第3条に1項設け、地域団体商標の場合には、要件を緩和し一定地域における識別力がある場合には登録できるとした方がよいのではないか。

権利能力なき社団については、制度趣旨からすれば主体として認めるべきと考えられるが、商標制度全体に影響を与える問題であり、今回は対象としないこともやむを得ない。

地域団体商標に係る商標権の効力について

「産地表示」については、現在と同様商標権の効力が及ばないこととすべきである。

(2) 模倣品に係る事例集について

権利保護活動をしている企業の立場として、このような事例集が作成されることは有意義。

普及啓発のために作成されるのであれば、結論を分かりやすく示すべき。

並行輸入であっても、場合によっては侵害の要件を満たしていることを明記すべき。

2. 今回の検討事項

今回は、報告書「地域ブランドの商標法における保護の在り方について」をとりまとめることとする。また、模倣品に係る事例集について、前回の検討結果を踏まえたうえ、商標制度小委員会としての意見のとりまとめを行うこととする。